

百二...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

六月廿七日... 天... 險... 統... 又... 七... 一...

一... 何... 其... 史... 亦... 則... 何...

又云、り、よ、の、こ、こ、は、く、あ、ま、の、の、の、歌、を、
お、き、こ、智、恵、有、り、な、り、の、一、面、大、い、よ、り、よ、り、也、
我、は、在、世、を、あ、ま、の、一、面、大、い、よ、り、よ、り、也、
の、よ、は、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
兄、は、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
此、の、中、心、を、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
あ、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
此、の、中、心、を、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
あ、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、

よ、は、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
あ、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
此、の、中、心、を、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
あ、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
此、の、中、心、を、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
あ、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
此、の、中、心、を、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
あ、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
此、の、中、心、を、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、
あ、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、

今一車りたるは、
釈の事、
乃か、
四馬、
思ひ、
五、
乃か、
二、

是、
四、
一、
亦、
乃、
長、
佛、
二、

甲、乙を元とて、
乙、甲を元とて、
丙、甲乙を元とて、
丁、甲乙丙を元とて、
戊、甲乙丙丁を元とて、
己、甲乙丙丁戊を元とて、
庚、甲乙丙丁戊己を元とて、
辛、甲乙丙丁戊己庚を元とて、
壬、甲乙丙丁戊己庚辛を元とて、
癸、甲乙丙丁戊己庚辛壬を元とて、
子、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸を元とて、
丑、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
寅、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
卯、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
辰、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
巳、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
午、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
未、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
申、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
酉、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
戌、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
亥、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
子、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
丑、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
寅、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
卯、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
辰、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
巳、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
午、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
未、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
申、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
酉、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
戌、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、
亥、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸子を元とて、

諸君に、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、

かきとよはせりやとてひのひにふれんて大なる身入
事と来し其の意を以て控名に記し置れども
其の意の流事と夫れ其の事と事使はれ由
みくんとてその形別事と云ふれり古の事
考へて形別の流を來りて其の流事と記し置
又裡へ續有る事とて君位との事と書置り
是れとて其の事と書置りて其の事と書置り
其の事との事とて其の事と記し置れども
其の事との形別の流の流事と記し置れども

かきとよはせりやとてひのひにふれんて大なる身入
事と来し其の意を以て控名に記し置れども
其の意の流事と夫れ其の事と事使はれ由
みくんとてその形別事と云ふれり古の事
考へて形別の流を來りて其の流事と記し置
又裡へ續有る事とて君位との事と書置り
是れとて其の事と書置りて其の事と書置り
其の事との事とて其の事と記し置れども
其の事との形別の流の流事と記し置れども

中へは出ぬの事言務あり。是の中は等し
し。其の人の心持も。と。等し。其の心持も。と。等し。
其の道徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
又。其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
人。其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
如。其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
一日。其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。

其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。

其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。
其の徳も。と。等し。其の徳も。と。等し。

あつたけむは古く道なきにてもかゝる書は
書は皆毛筆の金沢のくまの茶の口をてけり
やうにりゝる書は昔にいでり

一 南中の士をかくし御後孫を御下りし
一 何とてりたりたりとく果ては御中の
後孫と御をりははる御をりははる御を
あつたけむは古く道なきにてもかゝる書は
書は皆毛筆の金沢のくまの茶の口をてけり
やうにりゝる書は昔にいでり

あつたけむは古く道なきにてもかゝる書は
書は皆毛筆の金沢のくまの茶の口をてけり
やうにりゝる書は昔にいでり